

FOLKLORE PERFORMING ARTS



相模原市

おおしますわみょうじん
大島諏訪明神の
獅子舞

12/8日
令和6年

二〇二四さらめくふるさと
かながわ

民俗芸能祭

午後一時三十分開演

はまぎんホール ヴィアマーレ
入場料・無料(要事前申込み・裏面参照)



川崎市

りゅうきゅう
琉球古典芸能



茅ヶ崎市

えんざうまつりばやし
圓蔵祭囃子



FESTIVAL KANAGAWA

主催：神奈川県民俗芸能保存協会 共催：神奈川県、公益財団法人はまぎん産業文化振興財団
後援：神奈川県教育委員会、川崎市教育委員会、相模原市教育委員会、茅ヶ崎市教育委員会 協賛：横浜銀行

2024 きらめくふるさと かながわ 民俗芸能祭

移りゆく時代の中で、地域に暮らす人々に代々受け継がれてきた音楽や踊りや芝居などがいま、見直されています。

神奈川県には、山村、農村、そして市街地にも、さまざまな民俗芸能が伝承されてきました。古くから土地に伝えられ、また移り住んだ方々の、忘れがたい故郷の舞踊など、豊かな神奈川県の文化遺産の中から、三つの芸能をご紹介します。



おおしま す わ みょうじん

大島諏訪明神の獅子舞

相模原市緑区／大島諏訪明神獅子舞保存会

関東一円に分布する三匹獅子舞が奥多摩から旧大島村に伝えられたのは、文化・文政(1804~1829)の頃といわれています。以来、村の鎮守である大島諏訪明神に奉納されてきた大島の獅子舞は、いわゆる「角兵衛流」の一人立ち三匹獅子舞で、剣獅子・巻獅子・雌獅子・鬼面の4人の舞と、先導役の天狗、道化役の岡崎、笛と唄い手によって構成されています。毎年8月下旬、大島諏訪明神の例大祭に奉納されています。



茅ヶ崎市郷土芸能大会

圓蔵祭囃子

茅ヶ崎市／圓蔵祭囃子保存会

鎌倉時代、源頼朝の重臣で相模国懐島郷(現在の茅ヶ崎市)を所領し、鎌倉幕府の基盤作りに尽力した相模の豪族大庭景能が懐島圓蔵に館城を構え、戦勝の祝宴に家臣たちと笛や太鼓で楽しんだのが圓蔵囃子の基といわれ、頼朝公が上洛の折、景能の館城にて笛や太鼓で持て成して大層喜ばれたと言われています。その後、囃子の音は村人に受け継がれ地元有志が保存会を発足させ、地元有志が保存会を発足させ、その伝統と技芸を現在まで伝承しています。



りゅうきゅう

琉球古典芸能

川崎市川崎区／川崎沖縄芸能研究会

太平洋戦争以前から、川崎には工場の働き手として沖縄出身の人たちが多く住んでいましたが、その人たちが故郷を偲んで歌い、踊り、楽器を奏でているなかで昭和24(1949)年に結成されたのが川崎沖縄芸能研究会です。今回は、衣装が美しい古典女踊「四つ竹」、首里から薩摩までの船旅を写した二才踊(男踊)「上り口説」、そして庶民の生活を題材にした雑踊「浜千鳥」と「谷茶前」をご覧いただきます。

FOLKLORIC PERFORMING ARTS FESTIVAL IN KANAGAWA

開催要項

- 期 日 令和6(2024)年**12月8日(日)**
- 会 場 **はまぎんホール ヴィアマーレ** (横浜銀行本店ビル1階)
- 時 間 **午後1時30分開演** (午後1時開場/午後4時終演予定)
- 入 場 料 **無料** (事前申込みが必要)
- 募集人数 **400名** ※未就学児の入場はご遠慮ください。※お申込み多数の場合には抽選となります。

*会場での撮影・録音はかたくおことわりいたします。

申込方法

往復はがき1枚に、郵便番号・住所・氏名・電話番号・参加人数(1名または2名)・返信用宛先を明記のうえ、下記までお申し込みください。*ご応募は1名様1枚に限ります。

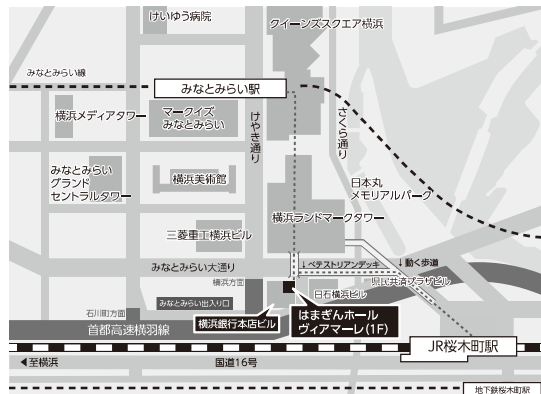
申込はがきの宛先 〒220-8611 横浜西区みなとみらい3-1-1
はまぎん財団「かながわ民俗芸能祭」係

申込期限 令和6(2024)年11月5日(火) 当日消印有効

※入場券(往復はがき返信)の発送は11月下旬を予定しています。
はがきに記載された個人情報は、本催事のみで使用し、厳正に取扱います。

アクセス

- JR・横浜市営地下鉄「桜木町駅」下車 動く歩道利用 徒歩5分
 - みなとみらい線「みなとみらい駅」下車 徒歩7分
- *公共交通機関をご利用ください。



TEL: 045-225-2173 (はまぎんホール ヴィアマーレ)
URL: <https://www.yokohama-viamare.or.jp>

神奈川県民俗芸能保存協会 芸能祭実行委員会事務局

お問合せ TEL: 042-785-0111 (平本) Mail: office@kanagawa-mzg.jp URL: <https://kanagawa-mzg.jp/>

写真・文章の無断転載はおことわりします。制作協力: 一般社団法人文化財共働、三報社印刷株式会社、伊藤昭久